

2020年5月14日

## 吸収合併に係る事前開示書面

川崎市中原区上小田中四丁目1番1号  
富士通株式会社  
代表取締役 時田 隆仁

当社は、2020年7月1日を効力発生日として、当社を吸収合併存続会社、富士通デザイン株式会社（以下、FDL）を吸収合併消滅会社とする吸収合併を行うことといたしました。

当社とFDLとの間の合併（以下、本件合併）を行うに際して、会社法第794条第1項および会社法施行規則第191条により開示すべき事項は、以下のとおりです。

### 記

#### 1. 吸収合併契約の内容

本件合併における吸収合併契約の内容は、別紙1のとおりです。

#### 2. 合併対価の相当性に関する事項

当社は、FDLが当社の完全子会社であるため、本件各合併に際して、株式その他の金銭等の交付は行いません。

#### 3. 吸収合併消滅会社の計算書類等に関する事項

(1) 吸収合併消滅会社の最終事業年度に係る計算書類等の内容

別紙2のとおりです。

(2) 吸収合併消滅会社の最終事業年度の末日後に生じた重要な後発事象の内容

最終事業年度の末日後に生じた重要な後発事象はありません。

#### 4. 吸収合併存続会社の最終事業年度の末日後の重要な後発事象

##### ・自己株式取得の件

当社は2020年1月30日開催の取締役会において、以下のとおり自己株式取得に係る事項を決議いたしました。

- ・取得対象株式の種類 : 当社普通株式
- ・取得し得る株式の総数 : 550万株（上限）（発行済株式総数(自己株式を除く)に対する割合 2.71%）
- ・株式の取得価額の総額 : 500億円（上限）
- ・取得期間 : 2020年2月3日～2021年2月2日
- ・取得方法 : 東京証券取引所における市場買付

5. 吸収分割承継会社の債務の履行の見込みに関する事項

本件合併後の当社の資産の額は、負債の額を十分に上回ることが見込まれます。

また、本件合併後の当社の事業活動において、当社が負担すべき債務の履行に支障を及ぼす事態の発生は現在予想されておりません。

以上により、本件合併の効力が生ずる日以降における当社の債務につき、履行の見込みはあるものと判断いたしました。

以上

# 合 併 契 約 書

富 士 通 株 式 会 社

富 士 通 デ ザ イ ン 株 式 会 社

# 合 併 契 約 書

富士通株式会社（以下、「甲」という）と富士通デザイン株式会社（以下、「乙」という）とは、合併に関し次のとおり契約を締結する。

## 第1条（合併の方法）

甲および乙は、本契約に従い、甲を吸収合併存続会社とし、乙を吸収合併消滅会社として合併を行う（以下、「本合併」という）。

## 第2条（合併をする会社の商号および住所）

### （1）甲（吸収合併存続会社）

商号：富士通株式会社

住所：神奈川県川崎市中原区上小田中四丁目1番1号

### （2）乙（吸収合併消滅会社）

商号：富士通デザイン株式会社

住所：神奈川県川崎市中原区上小田中四丁目1番1号

## 第3条（合併による新株式の発行および割当）

乙は、甲の完全子会社であるため、甲は、本合併に際して新株式の発行および金銭等の交付は行わない。

## 第4条（増加すべき資本金および準備金）

本合併に際して甲の資本金および資本準備金は増加しない。

## 第5条（承認総会）

甲は、会社法第796条第2項の規定により、同法第795条第1項の株主総会の承認を得ることなく本合併を行う。

## 第6条（効力発生日）

本合併の効力発生日は、2020年7月1日とする。なお、本合併の手續進行上の必要性その他の理由により、甲乙協議のうえ、効力発生日を変更することができる。

#### 第7条（財産および権利義務の引継ぎ）

乙は、2020年3月31日現在の貸借対照表その他同日現在の計算を基礎とし、これに効力発生日までの増減を加除した資産、負債および権利義務の一切を、効力発生日に甲に引き継ぎ、甲はこれを承継する。

#### 第8条（会社財産の善管注意義務）

甲および乙は、本契約締結後、効力発生日まで、それぞれ善良なる管理者の注意をもって業務の執行および財産の管理、運営を行うものとし、その財産または権利義務に重大な影響を及ぼす行為については、あらかじめ甲乙協議し合意のうえ、これを行うものとする。

#### 第9条（従業員の処遇）

効力発生日における乙の従業員は、全員甲が雇用するものとし、勤続年数については、乙における年数を通算する。その他の取扱いについては、別途甲乙協議のうえ、これを決定する。

#### 第10条（退職慰労金）

甲は、乙が乙の取締役または監査役に対して、乙の慣例を尊重して、乙の株主総会、あるいは会社法第319条第1項に定める方法による承認を得て退職慰労金を支給することに同意する。

#### 第11条（事情変更の場合）

本契約締結後、効力発生日までの間に、天災地変その他の事由により、甲または乙の財産もしくは経営状態に重大な変動が生じたときは、甲乙協議のうえ本合併条件を変更し、または本契約を解除することができる。

#### 第12条（協議）

本契約に定めのない事項または本契約に定める各条項に疑義を生じた場合、その他本合併に関し必要な事項については、本契約の趣旨に基づき甲乙協議のうえ、これを決定する。

本契約締結の証として本書 1 通を作成し、甲、乙記名押印のうえ、甲が原本を保有し、乙はその写しを保有する。

2020 年 5 月 14 日

甲 神奈川県川崎市中原区上小田中四丁目 1 番 1 号  
富士通株式会社  
代表取締役社長 時田 隆仁

乙 神奈川県川崎市中原区上小田中四丁目 1 番 1 号  
富士通デザイン株式会社  
代表取締役社長 長堀 泉

第 12 期

事 業 報 告

自 2018 年 4 月 1 日

至 2019 年 3 月 31 日

富士通デザイン株式会社

# 事業報告

(2018年4月1日から2019年3月31日まで)

## 1. 株式会社の現況に関する事項

### (1) 事業の経過およびその成果

今期は、富士通株式会社様および富士通グループ各社様からデザイン開発を受託し、エクスペリエンスデザイン、サービスデザイン、ユーザーインターフェースデザイン、プロダクトデザイン、情報空間デザイン、ユーザビリティ改善、DX分野に対応した上流ビジネスなどで成果を上げ、各依頼元にデザインを提供することで、富士通グループのビジネスに貢献しました。

サービス・インテグレーションデザイン分野では、営業部門やSE部門と協業・共同してUXデザインアプローチを活用した商談を支援しました。総務省 e-Gov 次期更新商談、川崎重工様 Smart-K プロジェクトの受注をはじめ113件、約321億円の受注に貢献しました。また、お客様との共創によるサービス創出活動では、営業部門と連携して業種横断で未来の社会や人の価値観の変化について調査と仮説づくりを実施し、様々な商談に展開しました。その成果をお客様のCXOへの提案に活用することで、イオン銀行様やウェルシア薬局様をはじめとした共創プロジェクトを円滑かつ優位に進めることができました。また、FOMM社との協業において、サービスビジョンのみならず具体的な施策を戦略ロードマップとしてまとめ、共創プロジェクトの方向付けと将来展開に貢献しました。こうした高いデザイン成果の創出により、DX分野における富士通デザインの信頼獲得とプレゼンス向上を図ることができました。

ソリューションPKGの開発においては、パブリックサービスBGのソリューション強化委員会に参加し、PKG開発プロセスへのデザイナー参画、開発工程におけるデザイン工程の明確化を実施しました。画面デザインガイドラインを発行して開発現場での運用を開始しました。また、電子カルテをはじめ30製品以上のデザイン支援に加え、文教分野でのビジョン開発などを実施し、各本部のビジネスに貢献することができました。

デジタル領域では、デジソリ事本と連携したCHORDSHIPの商談支援、プロモーションおよびブランディング支援、FUJITSU Agile Labの設計支援などを実施し、ビジネスに貢献しました。ソフトウェア製品についてはUIデザイン業務に加え、企画やプロモーションにも取り組み、製品の訴求力向上に貢献しました。特に、Systemwalker Cloud Business Service Managementの開発では、企画段階からアジャイル開発にデザイナーが参画し、サービスのスピーディなリリースに貢献しました。

特機システム事本に対するデザイン支援では、システム開発におけるUIデザインにとどまらず、プロモーション、ブランディング、AR/VRを活用した新たなビジネス開発など、支援範囲を大きく拡大しビジネスに貢献するとともに、前年度比約200%となる1億円の売上を獲得できました。

グローバルでは、FAIとの協業でBayer様(旧Monsanto様)のスマート農園UXデザインプロジェクトを受注しました。FAIのビジネスに貢献すると共に、富士通デザインとしてもグローバルなデザイン開発業務(お客様からのデザイン費用)となり、約2.6億円の売上を獲得できました。

スポーツ・文化事業に関連するデザイン支援では、従来のプロモーション支援に加え、事業・サービス企画から個別商談の提案支援、他のスポーツへの横展開などにも参画し、提案の価値向上、商談獲得に貢献しました。また、こうした新領域でのデザイン活動の蓄積により、デザイン業務領域の拡大やデザイナーのスキルアップを図ることができました。



サービスプラットフォームデザイン分野では、店頭系 PC において、お客様に響くデザインを磨き上げたことで高価格帯商品の売上拡大に貢献し、デスクトップシェア No.1 に導くことができました。また、商品 Web サイトのデザイン改善を行ったことで、ショッピングサイトへの誘導を活性化させ、販売数量拡大や高価格オプション選択率向上にもつながりました。

らくらくスマホ商談において、長年培ったデザインのこだわりや今後のビジョンを「らくらくデザイン展」として発表し、お客様の理解を促進させたことでドコモ様商談に貢献しました。エンドユーザーからのデザイン評価もとても高く、納入台数アップにも貢献しました。さらに、グッドデザイン賞も受賞しました。

システムプラットフォーム装置のデザインでは、これまで継続的に活動してきた NEXPAND (デザインアイデンティティづくりの活動) をもとに、デジタルアニーラや 2019 年稼働の次期スパコン (FX1000 や Post 京) の筐体デザインを行い、システム製品群のブランディング構築とプロモーション活動と連携したデザインを開発し、ビジネスに貢献しました。

デジタルコミュニケーションデザイン分野では、田中社長のプレゼンテーション資料のデザイン、TC ソリ事本での商談用資料の共通化、営業向け教育実施など富士通のブランディング向上、商談力向上に貢献できました。FDDA (富士通グループ内での公開サイト制作会社の総称) では、富士通の公開サイトにおける新しいテンプレートを 15 リリースし、魅力的な商品ページの作成を支援しました。制作費用を約 5 分の 1 に抑え、低価格短納期で品質の向上を図りました。また、グローバルなデザイン体制の構築を目指して、イギリスのクリエイティブサービスチームと協業について検討を開始しました。

富士通グループの公開サイトは全体量が非常に多く、グローバルに全体を変革していくためには、多くの課題を解決しなければなりません。

未来構想デザイン分野では、Affective Design の考えのもと、仮説提示、提案型のデザイン活動を推進し、本田技研様、日本航空様、竹中工務店、メルセデス・ベンツ日本様、B-リーグ様などと有償での超上流のビジネス開発につながる新規価値開発を行い、お客様の評価もいただきました。これらの活動を通して、新規ビジネスを狙う部門との間で、横断的に価値創造を進める関係が構築でき、次世代に向けた提案の事業化を進める基礎固めができました。

富士通社内に対しては、利用者起点での 5G のサービスビジョンの開発、富士通の経営戦略検討への参画などを通して、デザインの新たな機能や価値を示す活動ができました。

この結果、売上高は 3,554 百万円となりました。

事業別	売上高
デザイン開発、運営、管理事業	3,554 百万円

## (2) 設備投資等の状況

当事業年度中において実施いたしました設備投資等の主なものは、次のとおりであります。

### ① 当事業会計年度中に導入した主要設備

CELSIUS/LIFEBOOK 20 台 (リプレイス他)	9 百万円
小杉ビル 1F 来客スペース改装工事	9 百万円

### ② 重要な固定資産の売却、撤去、滅失

特にありませんでした。

### (3) 資金調達状況

特にありませんでした。

### (4) 対処すべき課題

富士通デザインは、富士通グループ全体がサービスソリューション企業に向けて変革することに対応して、オープンプラットフォームでのデザイン開発を強化し、UX デザインによる上流からの商談参画を拡大します。富士通グループ各社様が提供するサービス、ソリューション、商品のお客様価値向上と開発効率化に継続して取り組むことで、ビジネスに貢献して参ります。

サービス・インテグレーションデザイン分野では、UX デザインによる商談獲得から受注後の SI 支援に至る一貫したデザイン業務に対応すべく、SI 開発やソフトウェア開発プロセスにデザインを組み込み、商談獲得率向上や商品価値向上を図り、富士通グループ各社様のビジネス拡大に貢献します。

お客様価値開発の拡大と対応力の拡大・効率化を図るために、富士通グループ内のデザイン組織との連携強化やパートナー会社様とのチャンネルを拡大し、デザイン体制を強化します。さらに、富士通グループ内外へのデザインプロモーションを強化し、活動を拡大して参ります。

グローバル化をより一層進め、共創活動や UX デザイン活動の海外展開を推進し、グローバルでの売上拡大、ブランド価値向上に貢献します。そのために、海外における業種・業務ノウハウの拡大に加え、業種横断プロジェクトなどのデザイン活動を積極的に実践し、富士通のグローバル戦略に対応できるデザイン基盤や体制を整備します。

サービスプラットフォームデザイン分野では、製品開発のさらなる効率化、新サービスや新商品の具現化、ビジネス化に向けた取り組みが加速しています。そのため、富士通デザインにおいては、DX 分野のデザイン活動で獲得した UX デザインを横展開し、お客様との共創活動を牽引して、新サービスや新商品を検討するための共感度の高いアイデア開発、実際のモノに落とし込むスピードの向上、顧客接点に配慮したブランディングデザインなどを総合的に提供できる体制を構築します。さらに、デザイナーの企画や構想力を活用して、事業戦略策定まで支援できる能力を育成し、開発の一端を担うデザインから事業そのものをリードできるデザインへのシフトを加速します。

デジタルコミュニケーションデザイン分野では、富士通公開サイトを活用したデジタルマーケティングなどへの対応が急務になっている状況、様々な課題から公開サイト運営に携わる工数が膨らんだり GIG5 化への整備が進んでいなかったりする状況に対して、富士通公開サイトに関わる富士通グループ各社との連携をさらに強化して取り組みます。

この取り組みの内容をリファレンス化して、お客様のデジタルコミュニケーションを支援するデザイン活動のメニュー化を進め、デジタルコミュニケーションデザインの外販へつなげます。また、この分野のデザイナーの育成とデザイン体制の確立、ビジネス化も進めます。

未来構想デザイン分野では、過去 2 年間の活動で得られた社内横断体制を基に、ビジネスのオーナーを明確化し、2017 年度から 2018 年度に受託した案件を Co-Creation による新規ビジネスのリファレンスとして具現化します。さらに、Affective Design をはじめとした提案型のクリエイション成果を富士通の新たな提供価値として、社内外への認知、プレゼンス拡大を進め、富士通の経営に寄与する新たなヒューマンセントリックな差別化技術として確立することに挑戦し続けます。

最後に、富士通デザインは富士通グループのデザイン活動をリードする総合的なデザイン組織として、デザイナーのための人事制度改革、働き方改革やワークプレイス変革を牽引します。そして、富士通グループに在籍するデザイナーのプロフェッショナル意識を高め、クリエイティビティを育成することで富士通グループ全体のデザイン力を強化・拡大し、ビジネスに貢献して参ります。

## (5) 財産および損益の状況の推移

区分	2014年度 第8期	2015年度 第9期	2016年度 第10期	2017年度 第11期	2018年度 当期
売上高	2,993百万円	3,352百万円	3,640百万円	3,987百万円	3,554百万円
当期純利益	45百万円	115百万円	106百万円	166百万円	23百万円
1株当たり 当期純利益	112,500円	287,500円	265,000円	415,000円	57,500円
総資産 (純資産)	714百万円 (84百万円)	880百万円 (158百万円)	1,162百万円 (161百万円)	1,149百万円 (232百万円)	1,082百万円 (105百万円)

## (6) 重要な親会社および子会社の状況

## ① 親会社との関係

当社の親会社は富士通㈱で、同社は当社の株式を400株（出資比率100%）保有いたしております。当社は親会社よりデザイン（製品、サービス商品）開発及び適用支援の業務を委託され、これを納入いたしております。

## 主要な事業内容

事業	主要製品
デザイン開発、運営、管理事業	製品・サービスのデザイン開発、ユーザーインターフェースデザイン開発及び適用支援デザインコンサルティング

## (7) 主要な事務所

名称	所在地	名称	所在地
本社	神奈川県川崎市	小杉オフィス	神奈川県川崎市

## (8) 従業員の状況

従業員数	前期末比増減数
144名	+8名

## 2. 会社の株式に関する事項

(1) 発行済株式の総数 400株

(2) 株主数 1名

(3) 大株主

株主名	持株数	持株比率
富士通㈱	400株	100%

### 3. 会社役員に関する事項

#### (1) 取締役および監査役の氏名等（2019年3月31日現在）

氏名	地位および担当	重要な兼職の状況
上田 義弘	代表取締役社長	
齋藤 邦彰	取締役	富士通クライアントコンピューティング(株) 代表取締役 社長
徳田 正之	取締役	富士通(株) 理事
森岡 亮	取締役	
渡邊 誠	取締役	
小島 光	監査役	富士通(株) ビジネスマネジメント本部 営業経理部シニアマネージャー

(注) 1. 監査役 小島光氏は、富士通(株)の経理部門に勤務しており、財務および会計に関する相当程度の知見を有するものであります。

#### (2) 当事業年度中の取締役および監査役の異動

2018年12月31日に山田巖英氏が取締役を辞任いたしました。また、2019年3月31日に齋藤邦彰氏、徳田正之、森岡亮氏、渡邊誠氏が取締役を、小島光氏が監査役を辞任いたしました。2019年4月1日開催の臨時株主総会にて取締役会が廃止されたことに伴い、森岡亮氏、渡邊誠氏が執行役員に選任されて就任いたしました。また同臨時株主総会で大高仁氏が監査役に選任され、就任いたしました。

#### 【事業報告に関する附属明細書】

- ・役員に関する他の会社の兼務状況  
事業報告 「3. 会社役員に関する事項」 に表記してありますのでご参照ください。
- ・第三者間取引であり役員及び支配株主との利益相反取引明細  
該当する取引は存在しません。

第 12 期

計 算 書 類

自 2018 年 4 月 1 日

至 2019 年 3 月 31 日

富士通デザイン株式会社

# 貸借対照表

(2019年3月31日現在)

富士通デザイン株式会社

(単位：千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
<b>資 産 の 部</b>		<b>負 債 の 部</b>	
流動資産	902,426	流動負債	954,508
現金及び預金	1,906	未払金	695,459
預け金	33,756	未払費用	225,008
売掛金	841,758	未払役員賞与	2,386
未収入金	8,436	未払消費税	31,655
前払費用	7,617		
その他	8,951		
		固定負債	22,680
		役員退職慰労引当金	22,680
		<b>負債合計</b>	<b>977,188</b>
固定資産	180,539	<b>純資産の部</b>	
有形固定資産	75,567	株主資本	105,776
建物(純額)	17,093	資本金	20,000
機械及び装置(純額)	1,155	資本剰余金	8,678
工具、器具及び備品(純額)	57,318	資本準備金	8,678
無形固定資産	31,738	利益剰余金	77,098
ソフトウェア	31,738	その他利益剰余金	77,098
投資その他の資産	73,232	繰越利益剰余金	77,098
繰延税金資産	71,893		
その他	1,339	<b>純資産合計</b>	<b>105,776</b>
<b>資産合計</b>	<b>1,082,965</b>	<b>負債及び純資産合計</b>	<b>1,082,965</b>

注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

# 損 益 計 算 書

(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

富士通デザイン株式会社

(単位：千円)

科 目	千円
売 上 高	3,554,886
売 上 原 価	2,944,903
売 上 総 利 益	609,983
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	451,838
営 業 利 益	158,144
営 業 外 収 益	
受 取 利 息	9
営 業 外 収 益 合 計	9
営 業 外 費 用	
支 払 利 息	14
雑 支 出	41
営 業 外 費 用 合 計	55
経 常 利 益	158,098
特 別 損 失	
事 業 構 造 改 善 費 用	114,260
特 別 損 失 合 計	114,260
税 引 前 当 期 純 利 益	43,838
法人税、住民税及び事業税	28,125
法人税等調整額	△ 8,116
法人税等合計	20,009
当 期 純 利 益	23,829

注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

株主資本等変動計算書 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位:千円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		株主資本合計	純資産合計
		資本準備金	資本剰余金合計	繰越利益剰余金	利益剰余金合計		
2018年4月1日残高	20,000	8,678	8,678	203,537	203,537	232,215	232,215
事業年度中の変動額	-	-	-	-	-	-	-
剰余金の配当	-	-	-	△150,268	△150,268	△150,268	△150,268
当期純利益	-	-	-	23,829	23,829	23,829	23,829
特別償却準備金の積立	-	-	-	-	-	-	-
特別償却準備金の取崩	-	-	-	-	-	-	-
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額)	-	-	-	-	-	-	-
事業年度中の変動額合計	-	-	-	△126,438	△126,438	△126,438	△126,438
2019年3月31日残高	20,000	8,678	8,678	77,098	77,098	105,776	105,776



## 個別注記表

### 【重要な会計方針に係る事項に関する注記】

1. 会社計算規則(平成18年2月7日法務省令第13号、最終改正 平成30年3月26日法務省令第5号)に基づいて計算書類を作成しております。
2. 固定資産の減価償却の方法
  - (1) 有形固定資産  
定額法で計算しております。  
耐用年数についてはビジネスごとに実態に応じた回収期間を反映し、次のとおり見積もっております。
    - ・建物……………・2年～18年
    - ・機械及び装置……………・10年～15年
    - ・工具、器具及び備品……………・2年～15年
  - (2) 無形固定資産  
自社利用ソフト …… 利用可能期間(5年以内)に基づく定額法
3. 引当金の計上基準  
役員退職慰労引当金  
役員退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づき期末時点での要支給額を計上しております。
4. その他計算書類作成のための基本となる重要な事項
  - (1) 消費税等の会計処理 …… 税抜方式によっております。
  - (2) 連結納税制度の適用 …… 連結納税制度を適用しております。

### 【表示方法の変更に関する注記】

1. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)に伴う、「会社法施行規則及び会社計算規則の一部を改正する省令」(法務省令第5号 平成30年3月26日)を当事業年度より適用しております。これにより、前事業年度において、流動資産の区分に表示しておりました「繰延税金資産」は、当事業年度より固定資産の投資その他の資産の区分に表示しております。

### 【損益計算書に関する注記】

1. 事業構造改革費用  
間接・支援部門の従業員を対象としたキャリア転進支援制度の実施に伴う割増退職金等の費用であります。

### 【株主資本等変動計算書に関する注記】

1. 当事業年度末における発行済株式の数  
普通株式 400 株

#### 2. 配当に関する事項

##### (1) 当事業年度中に行った剰余金の配当に関する事項

決議	株式の種類	配当金の総額 (円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2018年6月14日 株主総会	普通株式	150,268,000	375,670	2018年3月31日	2018年6月29日

##### (2) 当事業年度の末日後に行う剰余金の配当に関する事項

決議	株式の種類	配当金の総額 (円)	配当の原資	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2019年6月28日予定 株主総会	普通株式	21,448,000	利益剰余金	53,620	2019年3月31日	2019年6月28日

# 第 12 期

## 計算書類に係る附属明細書

自 2018 年 4 月 1 日

至 2019 年 3 月 31 日

富士通デザイン株式会社

# 計算書類に係る附属明細書

(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

## 1. 有形固定資産及び無形固定資産の明細

(単位：千円)

区分	資産の種類	期首 帳簿価額	当期 増加額	当期 減少額	当期 償却額	期末 帳簿価額	減価償却 累計額	期末 取得原価
有形 固定 資産	建物	13,348	6,044	-	2,299	17,093	23,213	40,306
	機械及び装置	1,279	-	-	123	1,155	1,679	2,835
	工具、器具及び備品	64,745	19,513	-	26,940	57,318	132,801	190,119
	計	79,373	25,558	-	29,363	75,567	157,694	233,262
無形固定資産	ソフトウェア	40,167	4,806	-	13,234	31,738	-	-

## 2. 引当金の明細

(単位：千円)

科 目	期首 残高	当期 増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
役員退職慰労引当金	15,990	6,690	-	-	22,680

## 3. 販売費及び一般管理費の明細

(単位：千円)

科 目	金 額
給料	118,423
賞与	47,447
退職手当	6,690
退職給付	11,180
法定福利費	26,079
人件副費	9,537
減価償却費	7,154
固定資産税	5,198
賃借料	3,889
工具器具備品	19,239
補繕費	1,869
動力費	1,571
物流費	1,012
国内旅費	1,860
海外旅費	588
通信費	1,608
事務用消耗品	1,030
社外計算料	1,767
交際費	602
会議費	7
知的財産権	41,541
雑費	14,443
グループ本部費用	34,600
補助材料費	373
作業委託費	95,240
その他収益	△1,377
その他費用	178
合計	451,838

## 監査報告書

私監査役は、平成30年4月1日から平成31年3月31日までの第12期事業年度に係る計算書類及びその附属明細書を監査いたしました。その方法及び結果につき以下のとおり報告いたします。

なお、当会社の監査役は、定款第25条に定めるところにより、監査の範囲が会計に関するものに限定されているため、事業報告を監査する権限を有していません。

### 1. 監査の方法及びその内容

私は、取締役等から会計に関する職務の執行状況を聴取し、会計に関する重要な決裁書類等を閲覧いたしました。また、会計帳簿又はこれに関する資料を調査し、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書）及びその附属明細書について検討いたしました。

### 2. 監査の結果

計算書類及びその附属明細書は、会社の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

令和元年 5月 21日

富士通デザイン株式会社

監査役 大高 仁



ご参考

2018年度の配当金について

【配当原資】	(単位:円)
1. 2018年度末利益剰余金	77,098,303
うち、利益準備金	0
2. 差引、繰越利益剰余金(=配当原資)	<u>77,098,303</u>

【2018年度配当金】	
普通配当	
①2018年度純利益	23,829,300
②2018年度配当金試算(仮:年間配当性向 年間純利益の90%)	21,446,370
	(1株あたり)
③配当実施額	53,620
④中間配当額(2018年9月)	0
⑤期末配当額	53,620
※年度末発行株式数 400株	<u>21,448,000</u>
⑥差引、繰越利益剰余金	55,650,303

[参考]配当実施状況

(単位:円)

	中 間	期 末	年 間	配当性向
2018年度予定 (1株あたり)	0	21,448,000	21,448,000	90%
	0	53,620	53,620	
2017年度 (1株あたり)	0	150,268,000	150,268,000	90%
	0	375,670	375,670	
2016年度 (1株あたり)	0	96,036,000	96,036,000	90%
	0	240,090	240,090	